イ14
A1548
1

早稲田大学図書

五十二

検査

九年十二月廿日

検査大属渡辺県

伺

補

検査頭　御中　大属

本年度作業費及明年以降諸費

総算共御決議有之間

一　本年度作業費ノ義ハ九月六日各庁ヘ
御達之基本別段ノ出費ヲ撮別之外
調理可仕候事

一　作業費之義ハ本年ハ既ニ各種経費高

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

2249

右達諭ノ後ニ至リ豊後会社ヨリ更ニ右金額ノ内
百分ノ幾分ヲ減シ其残額ヲ以テ該社中興ノ営
業ハ仕掛切リトシ其業費ハ実際運用ニ許シ
無歳ノ末ニ至リ其金額納受ノ手続ヲ為シ度旨
仕候処更ニ掘工業上実際ノ便否ヲ積算計算書審議
ニハ其ノ十年ヲ以テ無歳依頼営業仕度旨ニ付之ヲ推遅シハ
資本ヲ定メタル金額ハ年々置据ヘトナシ該額ハ追テ
金ヨリ準備ノ掘入更ニ該額ヨリ経費ヲ取賄ヒ候順序ニ
相定メタル様方面法允当ト存候得共本年ハ窮
始ニ至リ既ニ歳入出予算表相定メ上申相成候事ニ付
今更右達ノ通相改候テハ却テ手数相増候ニ付決算
方ハ故ニ此金額ニ存候間本年ノ分ハ第一条ノ通リ
上申相成候間予算ニ随テ決算調理可仕存候尤明年度

以降ハ更ニ前陳ノ通リ決定相成度且右見込
ノ据置割合ノ儀ハ前陳仕候
資本金額計算ノ儀ハ明年作業費原額査定
ノ上当該年度予算ニ可相伺候
本議御裁可ノ上ハ作業費概算更ニ之ヲ
御裁可ノ上其年度ニ於テ上申仕置候為 詳細調
可相伺候
右至急御裁可相成度候也

本年作業費出納計算ノ方法ハ九月六日ヲ以テ達ニ基キ左ノ概則ニ準拠シ精理スルコトヽス

一 興業費ハ成規ニ従フ

一 営業費ハ作業費支持例則ニ準シ左ノ方法ニ従ヒ整理スヘシ

○原案査定法

該費ハ本年経費高ヲ編成ノ高（経費旅費其他ヲ編入ノ高）ヲ根基トシ之ヲ該省ト協議シテ各区ニ査定スヘシ

尤モ実際運用活働ヲ許シ之カ周囲ノ幾分ヲ減

額ヲ立ルハ各廳ノ見込ニ任ス

○原額交付法

原額渡方ハ毎一ヶ月分ハ之ヲ交付スルヲ本旨トス
ルト雖モ事業ノ模様ニ因リ二三ヶ月分ヲ繰上
ケ交付スルコトアルヘシ然レトモ此ハ主務ノ請求ニ従ヒ
其事由ヲ詳悉シテ臨時ノ商議ニ決ス

○益金納付法

収入金ハ壹ヶ月ヨリ成規ノ如ク運転ヲ許シ歳尾ニ
於テ収支差引残余ノ益金ハ納付ス為サシムルモ
尤モ月々納付スルハ主務ノ便宜ニ従フ
但原額ヲ歳尾ニ至リ返納為サシムルハ固

ヨリ成規ノ通タルヘシ

○造幣寮ノ如キハ収入ノ格別多数ナルヲ以テ當[illegible]ヨ
同寮ハ四半季ノ如クス

○富岡製絲場ハ従前準備金ヨリ[illegible]繰出
アリ故ニ本年總算書出ノ通出納スヘシ

本年ハ作業費概算ノ際ニ至ルヲ以テ前
文ノ如ク概定スルト雖モ誤順序タル永遠ニ施行
スヘキニアラサルヲ以テ明年度以降ヨリ之ヲ改
新セサルヘカラス其要領左ノ如シ

事業ハ渾テ相當ノ營本金ヲ準備シ（相當ノ資本ヲ常用ヨリ準備）
（務シ更ニ本行ハ手続ヲ為ス）
給付シ不足アラハ之レヲ下給シ益金ハ之ヲ

収入 ヲ要ス（営業資本金ノ外ハ損益ノ常用金ニ於テス）

但シ金額ノ異常ナル準備スルモノハ其理由ヲ示シ預金又ハ
當國製造場資本其他各種ノ準備金トナシ又ハ準備
中ニ於テ其ノ種ノ割ヲ規スルカ故ニ其定ノ外之レヲ別ニスル
モノトスル又従来ノ金額ハ国ヨリ準備金ノ所有ノ新規ニ積入スルモノ
非ラス単ニ出納上ノ例規ニ準依セシカ為メ故ニ常用ヨリ
積立テ置キタル所ノモノナレハ実際之レヲ計算整理スル際
他ノ一般準備金ト判然区別シテ其ノ準備中別ニ存スル所ト
スルカ為メ特ニ此般準備金ノ出納ニ混同スルコトナキヲ
要ス（判然区域ヲ立テハ毎年営業上ノ損益ヲ計較スルニ当リ百般収支ヲ明ニシ難キノ患アリ故ニ之ヲ判別スルナリ）

営業資本ノ給付シ之レヲ買換ヘ而シテ周歳
収支ヲ計較シ不足アレハ歳出並金アレハ歳入ニ
編入スルニ付テハ資本運轉ノ実况ハ毎一月報告
ヲ要ス

無論総予算中ノ歳入ニ損益ノ手続ハ其興業費ニ関シ計算ス（実際ノ歳入ノ高ヲ以テ編入スヘシ）

以上ノ事業ニ要スル金額ハ実況ハ利益ト図表ヲ製シ総
予算決算ノ報告スヘシト雖モ宜シク之レカ併載ヲ
考按シ異同ノ議定ニ付ス

遠隔ノ事業ヲ除キ作業所ヨリ至尤ナル官国
ヨリ作為スル所ノモノナルヲ以テ之レヲ人民ニ委托スルヲ得サル所ノ資金
会計表ニ編入スルハ従前ノ通タルヘシ

○興業費

該費ハ仕掛切リ精ニ算スルヲ主トスルヿトス

○無論其事業ニ従ヒ実況ヲ詳悉シ総算ヲ申牒為サシムルハ適当ノ経費ト見ユル丁無ク該算ヲ確実ニシテ其額ヲ定メ之レヲ歳出ニ編入ス

○営業費

営業資本ヲ給付シ之レヲ運轉セシメテ周歳収支ヲ計較シ不足アレハ歳出ニ余金アレハ歳入ニ編入スルモノニシテ営業運輸ノ実況ハ毎一月報告セシムヘシ

○無論総算申牒ノ手続ハ興業費ト同シ（其計算）（実際運輸ノ模様ニ寄リ編入スヘシ）

○以上二業ノ費ハ全部ノ実況ハ別ニ副表ヲ製シ記録算決算ヲモ公告スヘシト無論宜シク之レカ体裁ヲ考按シ其ノ目ノ議定ニ付ス

○造幣局寮ノ事業ヲ除クノ外作業ニ属スル官民ノ官園ヨリ作為スルモノニシテ之ヲ人民ニ要セサルヲ以テ歳入金会計表ニ編入スルハ従前ノ通タルヘシ

興業費営業費限界區分

茲ニ其概要ヲ示シ要領ヲ掲ルノミ其詳審定ヲ経テ定ム

詳ナルハ乙九之本年山澤之己ニ准擬ス

一 興業費ハ

事業創基ノ為メニ費途即チ工場ヲ始メ一切附

属ノ諸営繕或ハ器械ノ購入及ヒ諸般ノ経事

ス凡ソ當局經済諸雑工屬ニ係ル諸所日常ノ雑費ハ

未タ開業以前ノ創基ニ属スル費ハ之ヲ建

一 屬工事ヲ擴ムル費ハ同様ト

八幡浜製造所内ニ於テ船舶ヲ製スルニ方リ三十六万円ナリシ貳ハ壹萬五百里ナル之

百里ヲ増シ九十万円ニ及ヒ其他其地ヲ増スニ従ヒ亦其之ニ附スルモノ

同地ノ實ノ方ヲ以テ興業中一時用地ノ借地料ホハ該
部ニ編入ス
舊幕営業引継ノ事業ハ其諸費ヲ支出スルモ到底
神理スヘキモノニ非ラサルヲ以テ之ヲ閉ス
維新以降諸費ヲ支出シ全ク化業費ト區分ヲ以テ判定
以前ト區別スルモノハ渾テ該部ニ編入ス
但判定以前ノ諸収入ハ興業費償還ノ積ヲ以テ差引
計算ヲナシ残高ヲ以テ興業費額トシ今後営業
中ヨリ漸次興業費償還ノ目途ヲ立ツヘキモノトス

一 営業費ハ
興業費ヲ以テ一切完備ノ後同業以降要需ノ
諸費ヲ諸建物ノ営繕器械ノ繋換及ヒ補充
或ハ修繕及ヒ諸稼ニ従事スル費員諸給ヲ該
額ニ係ル該所日々ニ要需ノ物品又ハ生徒ノ諸費
ホ都テ編入ス
諸費ハ稽實際ニ便ノ為メ以テ用地及ヒ地ヲ總シ或ハ
便宜之ヲ改造シ或ハ営業ノ目的ニ属スル器械諸具其他
製造物ノ為メ上屋ホヲ営繕スルノ事ノ営業ニ
属スル新築修繕其該部ニ屬ス

但シ島津氏ノ墨本ヲ撮影セシモノハ與某所藏ノ

大藏省